

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表								
事業所名		てらびあぽけっと神戸元町教室						
公表日		令和8年 2月 20日						
利用児童数		30人 回収数 26						
		チェック項目						
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25			1	問題ないと思う。毎回しっかり見てもらっていると感じる。	勤務している職員が分かるよう、玄関に掲示する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25			1	ビルだから仕方ないと思うが入口が狭いと感じる。トイレが少し狭い。	見学などに来られた際に、こちら側の配慮についての説明を分かりやすく行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	1			いつもきれいでされている。気持ちよく過ごせるように見守って配慮してくれている。	実際にプログラムを行っている様子を見てもう機会を増やす。
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26				子どものことを十分理解した上で保護者の要望を聞いて、説明してくれる。	専門的支援の提示時に担当が詳しく説明する時間を設ける。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26				合っていると思う。個々の問題に寄り添ったプログラムだと思う。	公表している内容を閲覧してもらう機会を作り、質問等にも対応する。
	7	子どものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26				子どもに対して気付けていなかつた事も色々取り入れて、よく見てくれていると思った。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26				今何が必要か、今後を見据えた内容で、丁寧に説明してくれるで分かりやすい。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26				どのような支援をしたか、きちんとフィードバックを受けているので大変満足している。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26				様々な工夫をしてくれる。担当の先生が毎回違うので、それだけで新鮮を感じる。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	4	4	5	日中は登園しているので必要性は感じていない。	事業所での交流は現状難しいことを契約時に説明する。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26				契約時に丁寧に話してくれた。気になったことはその都度質問していく、すぐに教えてもらえる。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26				毎回、丁寧に説明してもらっている。	
保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1		1	発語の促し方など、とても勉強になった。	毎利用時に行っているがそれが「家族支援プログラム」と認識されていないので再度お知らせする。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1			毎回フィードバックをしてもらい、その日の様子や成長具合、逆にもう少し時間がかかりそうだということがよく分かる。	来所時に必ず様子を伺いプログラム開始前には担当へ引き継ぐ。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	1			利用ごとに、その日の様子と一緒に助言もしてもらっている。試しやすい方法を教えてくれる。	こちらからのアプローチを増やし、悩み事等を見逃さない様にする。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	1			とてもよく見てくれており、親身になって話を聞いてもらっている。	今後も寄り添った支援を続けていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされている。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	4	1	8	あればいいとは思うが、参加できるかどうかは分からない。	年長児の就学に合わせて今後の流れを話すと共に、放課後デイへの移行の話や情報交換出来る場を提供する。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25			1	気軽に頼めるよう、常に気をかけてもらっている。園への訪問や連絡などもお願いしている。	随時相談を受け付けていることをお便りにも毎回掲載する。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25			1	連絡帳に記載したり、直接話したりLINEでやりとりしている。	まずは職員間の共有を徹底し、全員が把握しておく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	26				毎月のお便りを楽しく拝見している。SNSの更新が多いので、よく見ている。	発信についてのお知らせを分かりやすく提示する。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25			1	気になったことはないので、されてると思う。	年に1度の研修を引き続き実施し、全職員が常に意識を高めていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25			1	マニュアルを置いてある場所を教えてもらっている。入口にあるので目に留まりやすい。	掲示してあるマニュアル等に、更に目が行く工夫をする。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25			1	様子を教えてもらったり、子どもからも聞くことが出来ている。	訓練後はSNSを発信し、玄関にも様子を貼りだす。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25			1	エレベーターのロックなど。常に危険がないかの配慮はしてくれていると思う。	安全計画を実施した際に、報告をお伝えしたり掲示したりする。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25			1	契約時に一通りの説明は受けている。	契約時だけでなく、時期を決めて年に1回定期的に情報発信する。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	25	1			どの先生にも懐いており、子どもだけでなく保護者からみても安心して預けられる。	1人1人の特性に合わせた対応を実施する。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	25	1		1	いつも楽しく通っている。毎回楽しく通所しているので安心している。	「できた」の経験を積み重ねていくプログラム内容を考案する。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	1			相談できる唯一の場所になっているので、とても有難い。	

事業所における自己評価結果

公表	事業所名	事業所における自己評価結果			
	てらびあぽけっと神戸元町教室				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1日3クールに分かれており1クール辺り3,4人の利用になる為十分なスペースがある。物の配置や整理整頓を心掛け、出来る限り広いスペースを確保している	
	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		児童の人数や特性に応じて職員を配置し、複数療育を取り入れるなど工夫している。	必要に応じて指定基準以上の配置が行えるよう、今後同法人内の事業所とのフォローアップ体制を確立していくことを検討。
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		お子様の特性に合わせて視覚的な提示をしたり、配置や情報を簡素にして気が散りにくい環境の構造化を行っている。	開業当初から使用している視覚支援ツールも多いので見直しをし、常に最適な環境を整えていく。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		クール時間ごとに換気や消毒を行い、感染予防を徹底している。活動内容に応じて使用するスペースを調整している。	冬季の空気乾燥対策の見直し。今よりも良い空間改善を図っていきたい。
	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別療育に対応できる個室を提供している。クールダウン等に使用する際は速やかに物の移動が出来るよう周知している。	カームダウン・クールダウンが出来るスペースを常設できないか検討していく必要がある。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		日々の終礼や月末のミーティング等で振り返りを通して職員間で気付きを共有し、目標設定や支援方法の見直しに繋げている。	ミーティングに参加出来なかつたパート職員等にも情報漏れがない様に確認できる場を拡げていく。
	保護者向け評価表により、保護者等の意向を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		アンケート時期だけでなく、年間を通じて改善できるところは直ぐに対応していくなど常に模索している。避難訓練とう実施が周知されていないものの拡散方法等	保護者の意見をより把握できるよう、アンケート配布時に意見記入の周知に努める。
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的な面談・聞き取りを実施し、業務に取り入れている。ミーティング等では全員が意見を発する機会を設けている。	今後は更に意見交換の場としてグループワークの実施も検討している。
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		本部SVによる年1回の巡回訪問で業務チェックや相談等の指導をしていただいている。	
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		事業所内で毎月1度勉強会や研修を実施している。外部研修や他事業所との合同研修にも参加し、知見を広げている。	勉強会等の担当を順番に割り当て、実際に主導を持って参加するなど更に意義のある場にしていきたい。
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		5領域の沿っており、保護者にも分かりやすい内容に纏めて公表している。	
	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		半年に1度保護者との面接、モニタリング会議を行い、計画の見直しとニーズの更新、現状把握をおこなって作成している。	口頭だけでなく実際に療育を見てもらい、保護者からの意見を頂く機会を増やす。
	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		保護者との面談後カンファレンスを行い、お子様の現状、ニーズの確認を行い、必ず全職員の意見交換の場を設けて検討している。	
	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成された支援計画は必ず全職員に提示し、日頃から確認出来るよう、利用児も個人ファイルやデータにも掲示している。	日々のプログラムを作成する際に、常に支援計画を念頭に置いた状態で、今すべきことを見極めていく。
	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		『行動観察シート』や『強化子サンプリング表』を用いて職員間で情報を共有している。	5領域に沿ったチェックシートの活用。
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		就園・就学についての相談や就園・就学先に提出する移行シートの作成、通園先との連携、保護者との仲介役を担っている。	就園先や家族に、こちらからもっと連絡をとり、連携を密にしていく。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		担当の入れ替え制でチームとして1人1人の療育プログラムをリレーで行っている。その際、課題や目標とねらいを共通理解しておける申し送りを実施している	定期的に複数療育などチームで行うプログラムを現状よりも増やしていく。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		チェック表を用いてデータ化し、段階的にプログラムが進むようにしている。	簡潔だが、誰が見ても引き継げる内容を入力する力を向上させる。利用したツールがすぐに分かるよう工夫（ナンバリング等）。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		リズムウォーキングや始まりの会以外にも複数での療育を取り入れ、他者との関わり方や社会性の発展が促せるよう支援している。	今後はソーシャルセラピーとして1：2でのプログラムを更に発展させていきたい。

	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	毎朝礼でその日のリーダーを中心に支援内容や役割分担を確認し、情報共有を行っている。	パート職員など朝礼等に参加して情報を得る機会が少ない場合にも共有を怠らず支援前には必ず把握出来た状態で支援に入れるように周りで配慮していく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	終礼で担当児のフィードバックを実施し、意見交換をして次の支援に繋げている。休みの職員には日報や翌日の朝礼で共有し、データとしても残している。	気付いたことに対して更に意見交換を深めてよりよい療育につなげていく。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	個別ファイルにその日実施したプログラムや結果をデータとして残している。最低限の記載項目の統一化することで検討しやすくしている。	課題の原点に振り返った検証も必要。（今の課題が出来ていないのは、もうひと段階前の課題がクリアされていないのではないかという事への気付き）
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	3か月ごとのモニタリングを実施し、計画内容と支援の見直し、目標に会ったプログラムの展開を話し合っている。	日々の療育や保護者からの相談で新たな課題が表面化した場合はその都度支援計画を見直すようにしていく。
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	管理者・児童発達支援管理責任者が参画し、その後速やかに記録や会議で共有している。	管理者・児発管以外にも対応できる職員の育成を行っていく必要がある。
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	保護者からの依頼や意見の共有の下、関係機関との連携を行い、支援の共有や協力関係を整えている。新たな発見もあるので支援する上で貴重な場となっている	職員間で対応や理解に差があると感じるので、情報共有や理解を深める機会がもう少し必要。
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	園訪問の実施、園側からの来訪、電話での情報共有を行うことで、環境によっての違いや新たな発見をお互いに出来ている。	連携（訪問させていただけ）通園先を更に増やしていく。
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	教室での取り組み、今後も配慮してほしい点などを希望者に就学支援シートに記載して校長宛てにお渡ししている。	就学先以外にも放デイなどの療育の移行先とも引継ぎ等のやり取りが出来ればと考えている。
	(28~30は、センターのみ回答)			
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	(31は、事業所のみ回答)			
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	自立支援協議会に参加し、直接質問したり専用フォームを用いて連携出来る。	必要な時にすぐ対応してもらえるように常日ごろから更に密な関わりが出来れば有難い。
保護者への説明等	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域周辺のお子様を持つご家庭や園などに当事業所の存在を知ってもらえる機会などは今後検討していく。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	毎療育後に保護者とのフィードバックの時間を設けており、現状課題の共有・報告をし、自宅での様子や子育ての相談も伺っている。	全職員が1人も子供に対しての理解・認識にずれが発生しないように常に新しい情報を提供出来る様、掲示の仕方など工夫が必要。
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアメント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	プログラムで実施している支援内容をホームセラピーとしてお伝えし、てらびあほけっと独自の動画をお悩みに合わせてお勧めして視聴してもらっている。	プログラムで実際に効果的だった教材等を紹介し、家族が自宅でも取り組みやすいようにしていく。
	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	契約時に詳しく説明しており、変更等があった際には文書と合わせて口頭でもお知らせしている。	保護者から質問等があったときに、どの職員も対応できるようにしておく。
	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	アセスメントや日常の保護者とのやり取りで得た気持ち（希望や不安）を踏まえ、情報共有を通してそれぞれの意見を確認し、支援計画に反映している。	普段から、保護者の素直な気持ちを聞き出せるよう、職員との信頼関係を構築する努力を怠らずに続けていく。
	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	作成後は必ず内容の確認、目標とそれに対する支援方法の説明を行い、質問等にも対応している。	同意を得るのは児発管だが、目標に至った経緯等、他職員もしっかりと把握しておく必要がある。
保護者への説明等	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	フィードバック時に相談を伺うだけでなく必要に応じて面談の時間を設けて対応している。その後の園訪問や他事業所との連携に繋げている。	悩みを抱えていることを見逃さないよう、保護者の様子を觀察して、こちらかのアプローチをどんどん増やしていく。
	父母の会活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者の意見を取り入れながら、交流の機会を検討していく。
	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	管理者や児発管が柔軟に対応出来る様、日程調整等を速やかに行い、他職員にも協力を仰いでいる。	更なる体制を整える為に、対応できる職員を増やすと共に、急な変更にも即時動ける心構えを常に持つておく。

	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月のお便り配布に加え、更新頻度を決めてSNSでの発信も行っている。また、子ども毎に利用時の様子などを各保護者に見てもらえるようにしている。	更新頻度をあげて周知を図っているが、まだ足りない感じがあるので、もっと沢山の方に見て頂けるよう、玄関の掲示や口頭でのお勧めを行っていく。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		データや書類に関しては日々徹底している。年に1回研修も実施し、職員の意識向上にも努めている。	
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		イラスト等の視覚支援やハンドサインでの意思表示など、必要に応じて方法を工夫し、理解しやすい形で伝えるようにしている。	障害のある保護者（大人）への対応は不慣れな所も散見されるので、今後勉強会などを検討。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		地域との繋がりは現状難しいと思われる所以、引き続き区の自立支援協議会に参加するなどして、交流を拡げていきたい。
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		研修・訓練を職員がそれぞれに担当し計画・実行することによって、マニュアルを見返す機会にもなり、理解を深めることが出来ている。	ここ数年、周知に尽力してきたが、まだ完全とは言えないもので、手法を変えるなどして更なる周知に努めたい。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年に数回、職員または子どもと一緒に訓練を行っており、避難場所まで実際に歩いて危険性のあるものなどの確認や違うルートでの避難も想定して実施している	避難場所までは職員のみでしか行けていないので子どもを連れての訓練も実施していきたい。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		てんかん発作のある児童の保護者から医師より頂いた書面を基に説明を受け、研修を行うなどして対応を共有している。	情報の更新や急な変化の対応などを定期的に確認して、いつでも対応出来る様準備を怠らない様にする。
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	食事を提供することはないが、粘土や水筒忘れた際に飲んでもらうお茶などにもアレルギーが関係することもあるので、必ず聞き取りを行っている。	保護者との面談等で聞き取りを行っているので、その際に医師の指示書に基づいた対応が必要かどうかを聞いておく必要がある。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		年に1度必要な研修や訓練、措置を制定し、それに基づいて計画・実行している。途中で必要性を感じられたものは都度追加し臨機応変に対応している。	これからも取り組みの記録や分析を更に進めて実効性を高めていく。
50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		送迎の際に目につきやすい場所での提示をしている。掲示だけでは気付かない場合も多いので、前を通る際に声をかけて見て頂くなどの工夫はしている。	定期的にフィードバック時に安全計画の話題に触れるなど、普段から興味を持ってもらえるよう努力する。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		発生当日にどう対応するかを話し合い、月1のミーティングで振り返りを行っている。	もっと気付いて報告数が増える（見逃さず報告・共有できる）ように職員の意識を高める。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎年必ず全員が研修後に報告書を提出し、理解や自覚を確認しながら意識向上と対応力を高めている。	引き続き、お互いに注意喚起し合える（風通しの良い）職場関係の構築を心掛けていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、対象児童はいないが、必要な場合に備えて適切な対応と知識を研修で学び、周知している。	必要になった場合は確認の為、速やかに改めて追加の研修を実施。

事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	てらびあぽけっと神戸元町教室			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 5日 ~ R8年 1月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	R8年 1月 5日 ~ R8年 1月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者のスキルとニーズに合わせてオーダーメイドの療育プログラムを実施し、個々に合った支援を柔軟に提供している。	課題に対して個別で柔軟に多方面からアプローチしている。(ABA療育を軸にスマールステップで進めている)アセスメントによる現状の把握と職員への周知。目標までの取り組みのタスク化による確実なステップアップ。	面談時やモニタリングでてらびあぽけっと独自の825のチェックリストの確認、見直しを行い、日頃のプログラムに活用していく。毎回のプログラムを全職員が周知出来る様、データの記録と共に申し送りを確實に行う。
2	保護者からの悩みや相談に対してその都度体制を取り対応している。気軽に相談しやすい環境を整えている。	保護者からの依頼やこちらからの提案で面談や相談の場を設け、情報提供を行っている。希望に応じて、またはこちらからの提案で通園先との積極的な連携を行い、訪問や見学の受け入れを実施している。	依頼し辛い保護者には、こちらから様々な提案を持ち掛け、悩みなどを見逃さないようにする。いつでも迅速に対応出来る様、できるだけ配置の段階から想定した陣形をとっておく。(安定した職員配置)
3	季節の行事を療育に積極的に取り入れ、多様な経験を通して学べる環境を整えている。非日常体験による非認知能力の向上、社会性、心の発達も促している。	行事ごとに季節感を味わい、その意味や内容を分かりやすく伝えている。時系列の習得にも役立てている。制作・活動においては個々に合った内容で参加出来る様にしている。(制作の工程やゲームの内容等)	引き続き、利用児の発達・年齢に合わせた包括的なイベントの展開。一人ひとりの目標・ねらいを意識した関わり・支援方法を模索していく。
	事業所の弱み（※）だと思われるること ※事業所の課題や改善が必要だと思われるること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	質の高い療育を行い、満足度も高いが認知度が低い。	事業所を発信するためのツールが少ない。SNS等を活用しているが、ターゲットを絞っていない。大通りに面しているが、看板等、目に付きにくい。	SNSを更に有効活用し、必要としている方へ情報が届くように工夫が必要。 市や区の協議会等へ積極的に参加し、まずは関係機関の方に認知してもらう。 園訪問等を増やしていく。
2	保護者間での交流、情報収集の機会が少ない。	保護者同士の交流の場を提供するのが困難。場所の確保、日程調整が難しい。 交流を望んでいない保護者が望んでいる方に比べて大多数いる。	交流を希望しているかどうかのアンケートを取り、希望者ののみに向けた小規模な場を検討してみる。その際には、どんなテーマを希望しているかも調査し、ペアレントトレーニング+雑談など、保護者の意向をまずは確認する。
3	入口玄関やトイレの狭い。	建物の構造上、空間を広げることも、バリアフリーに変えることも出来ない。 玄関の扉がエレベーターの扉になっている。	なるべく物で空間が圧迫されないようにする。利用児・保護者との対応時間の短縮。靴の脱ぎ場を明確にする。トイレ前にカーテンを吊るし、服の着脱や介助時に外から見えないように配慮する。